

第12章 東中学校西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間、標高は20.0～21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

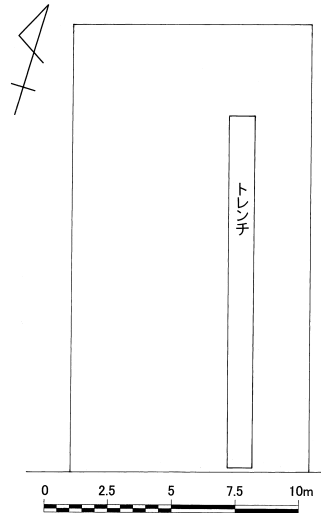
遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てて東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑等を検出している。中・近世では墓壇・溝・柵列等が確認されている。本遺跡は区画整理事業と大規模開発による開発が進み遺跡面積約4haのうち約80%が調査されている。本遺跡の調査は1995年以来2008年1月現在、31地点で試掘調査および発掘調査を行なっている。

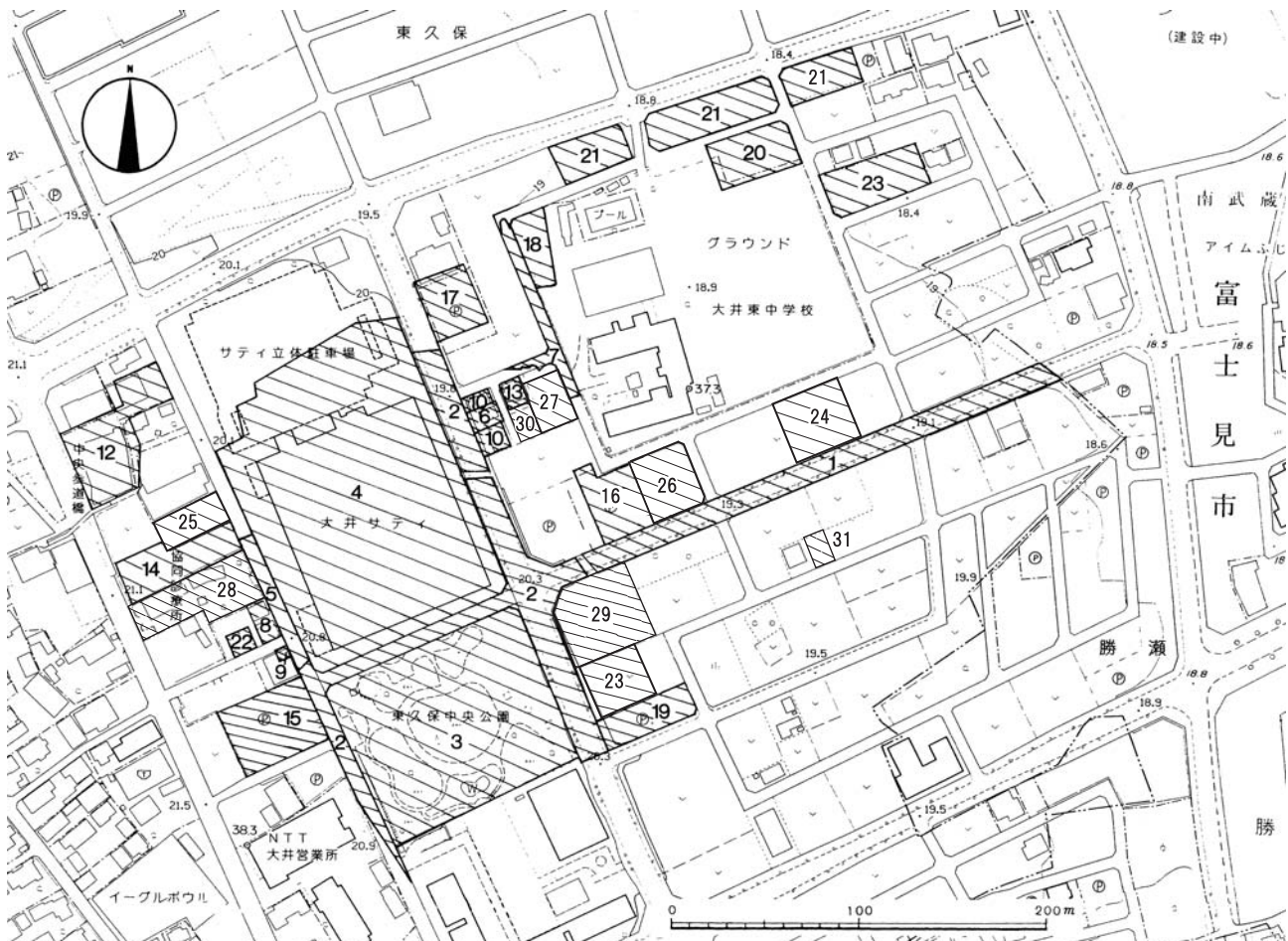
II 東中学校西遺跡第31地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年12月7日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置するため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認する工事の立会いを2008年2月14日に行なった。重機の提供を受け、幅約1m、長さ13mのトレンチ1本を設定し、現地表面下約75cmで地山ローム層を確認、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影を行ない、工事立会いを終了した。



第34図 東中学校西遺跡第31地点調査区域図 (1/300)



第33図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ1



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ1・2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ3・4



江川東遺跡第15地点出土遺物



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ1



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ2



東中学校西遺跡第31地点近景